THE FRONTIER TIMES

# Report

## 1 国連フォーラム共同代表が登壇

### 2016年度入学式のゲストスピーカーとして 国連フォーラム共同代表がスピーチされました。

皆さんは西暦2001年以降、つまり21世紀に生まれた方がほとんどだと思います。これからは科学技術や医療も進み、長生きできる時代になるでしょうから、きっと多くの方が100歳くらいまで生きることになると思います。そうすると西暦2101年、22世紀がやってきます。つまり、皆さんは21世紀の初めに生まれ、22世紀を見ることになる世代です。22世紀はどんな世界になっているのでしょうか、地球は、人類は、22世紀を迎えることができるのでしょうか。

国連職員は世界の平和や経済社会開発、人権のために働くしごとです。その当時、そして今も、世界には二つの大きな問題があると思います。ひとつは地球環境の問題、もう一つは貧富の格差の問題。この二つの問題は私たちが住んでいるこの地球の未来を危うくしています。この問題の解決のために私は三つの事をすればいいと思いました。ひとつは、自分の能力を最大限伸ばしながら、世界を変える力をつけていくこと。二つ目は、世界の子ども、特に貧しい発展途上国の子どもたちがすくすくと育って、貧しさから脱することができるような社会をつくること。そして三つめは、世界の国が力を合わせて大きな問題の解決ができるようにすることです。そのために、国連職員になることに決め、子どもへの支援をする国連機関であるユニセフに勤めることにしました。世界は地球温暖化を止められるか、貧富の格差をなくし、平和な世界を維持できるか。皆さんの未来はこのままでは危うい、しっかり力をつけ、世界のために何ができるか考えてほしいと思います。

国連フォーラム共同代表
**久木田　純** 氏

1985年外務省JPO試験に合格、翌年から国連職員としてUNICEF駐モルディブ事務所に派遣され、駐日事務所、ニューヨーク本部などを経て、駐東ティモール事務所代表、駐カザフスタン事務所代表を歴任。2003年に世界銀行総裁賞受賞。1995～1997年、東京大学大学院医学系研究科および教育学部で非常勤講師。

## 2 MRJ(三菱リージョナルジェット) 開発担当者来校

### 「航空機産業」から「海外とのパートナーシップ」を学ぶ 第13回 国際理解講演会を実施

6月18日(土)、三菱重工業株式会社の和久浩行氏を迎え「航空機産業と海外とのパートナーシップ」をテーマに国際理解講演会を実施しました。国際理解講演会は名古屋国際中の開校時から実施されている恒例行事で、さまざまな分野の前線でグローバルな活動に従事する人の体験談から、将来、国際舞台で活躍するために必要な知識や教養を身につけることを目的としています。

昨年、愛知県で初飛行を成功させた純国産ジェット旅客機「MRJ」の開発に携わられている和久氏からは、航空機の国際共同開発を念頭に航空機の歴史、開発作業などの高度で専門的な内容を中高生にも分かりやすいよう写真や映像を交えながら説明していただきました。**特に「飛行機設計の国際化」や「海外での共同作業」のセッションでは、航空機産業が一国だけの視点ではなく、世界各国の意見や優れた技術を組み合わせることで、より良いものを作り上げているプロセスを学習しました。**

三菱重工業株式会社
バリューチェーン本部
主席部員
**和久 浩行** 様



# Feature

## 中長期計画ビジョン 「NEXT FRONTIER 2025」スタート!!

### 魅力ある国際教育で10年後の未来、2025年に輝くために。

名古屋国際は、高等学校に国際教養科を設置し、中等教育における国際教育の実践から20年目を迎える記念すべき2015年に中長期計画ビジョンを策定しました。
建学の精神であるフロンティア・スピリット(開拓者魂)を基軸とし、名古屋国際中学校・高等学校が実践する国際教育の質を高め、さらなる飛躍を実現するため、21世紀のファーストクォーターを迎える2025年を目標年とした中長期計画ビジョンに沿ったアクションプランを実行します。

## 名古屋国際の10年先の未来

2025年の名古屋国際中学校・高等学校は、世界水準の国際教育を実践する私立中高一貫校として、東海地区において先駆的な役割を担い、国際的に活躍できるグローバル・リーダーに求められる国際的素養を醸成する独創性の高い教育環境を有した中等教育機関となることを目指します。そして、名古屋国際中学校・高等学校での国際性、多様性に富んだスクールライフを期待する生徒を国内外から広く受け入れ、魅力ある国際教育の実践をもって世界の幅広い分野で秀でて活躍する卒業生を数多く輩出することを実現させます。

### Vision［名古屋国際の3つのビジョン］

- Vision1［ビジョン1］ 世界基準の魅力ある国際教育を先駆的に取り組む私立学校
- Vision2［ビジョン2］ 持続可能な国際社会に貢献できる高い志を持った国際生
- Vision3［ビジョン3］ 世界と日本の未来を担うリーダーとして活躍する卒業生

## 名古屋国際のビジョンと3つの方針

**Policy1［方針1］［ 教育研究に関わる方針 ］**

### 魅力ある国際教育の仕組みを創る

国際社会の新たなニーズに応えられる人材育成を図るため、これまでの名古屋国際が実践してきた国際教育を継承しつつ、本校の教育理念との親和性の高い世界基準の教育プログラムの改善に取り組みます。

**Policy2［方針2］［ 連携に関わる方針 ］**

### 魅力ある国際教育の価値を高める

名古屋国際は国際化を進める国内の大学、民間企業および国際機関等との連携を図ることで、現代のグローバル社会で起きている課題について探究する機会を提供します。これにより名古屋国際が有している国際教育に適した教育環境の領域を拡充すると同時にその専門性を高めます。

**Policy3［方針3］［ 管理運営に関わる方針 ］**

### 魅力ある国際教育を安定させる

名古屋国際の先駆的な国際教育の取り組みは過去20年間の実績で着実に成果を上げ始めています。その一方でユニークな国際教育に関わる経費の支出の増大は本校の財政上の懸念事項となっています。

**Action Plan［プラン1］ 1 海外名門大学をターゲットにしたキャリア支援の確立**

海外名門大学のアドミッションオフィサーを招致して海外大学進学説明会「東海地区グローバルアドミッションガイダンス」を、東海地区におけるグローバル人材育成に重点をおいた中学校および高等学校の生徒を対象に開催します。また、世界の大学入試で国際基準として活用されている国際バカロレア・ディプロマプログラム(英語版)に対応したネイティブファカルティによる進路指導体制を確立します。

**Action Plan［プラン2］ 2 グローバル化に対応した教育に資する戦略的な開拓**

知識と実践を融合させた先進の国際教育の領域を常に開拓するために、国・地方自治体による中等教育におけるグローバル化を推進する事業へ積極的に挑戦します。また、国際教育の標準としてのモデルスクールにとどまらず、リーディングスクールとしての使命を果たすため、国際教育の分野における大学・地方自治体等からの視察や調査に協力します。

**Action Plan［プラン3］ 3 グローバル化を推進する組織とのアライアンスの強化**

現代のグローバル社会で起きている社会課題に対しフロントランナーとして直接関わっているキーパーソンの知識や経験、精神に直接触れる機会を創り出すために、グローバル化を推進する国内外の国際機関、大学、民間企業およびNPO等との連携を強めます。また、この連携強化によってSGH開発研究のテーマに関連する分野の教科指導の専門性を高めます。

**Action Plan［プラン4］ 4 世界を闊歩できる国際人プログラムの導入**

国際理解研修の参加者を対象としたスタートアッププログラムを導入し、海外名門大学の大学院生の指導のもとアクティブラーニングを通じて、海外志向である国際生の潜在的な力の発揮を図ります。また、ネイティブファカルティ(TESOL資格者)による高水準英語コミュニケーションカリキュラムを課外に追加し、能力別に少人数の指導を行います。さらに、世界五大陸で見聞を広める新たな国際理解研修コースを連携する大学と共同企画し、地球規模で世界を俯瞰する眼を養います。

- 東京で第32回夏季オリンピックが開催
- 文部科学省 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)導入
- 国際バカロレア機構による定期メンテナンス評価訪問
- 国際化に取り組む国立大学86校の外国人留学生割合が10%に高まる(現状の約2倍)

- 国内での国際会議の開催件数が2010年の1.5倍以上となりアジア最大の開催国となる。
- 海外展開する企業が2013年度から1万社増加となる
- 質基のFTA(自由貿易協定)比率が70%以上となる
- 文部科学省 高等学校基礎学力テスト(仮称)導入

2015年 / 2016年 / 2017年 / 2018年 / 2019年 / 2020年

Phase1 フェーズ1［4年間］ ビジョン実現に向けて必要となる初期段階のアクションプランを着手しながら現行の体制に新たな制度を導入する時期

**Action Plan［プラン5］ 5 国際生の国際生による国際生のための海外プロジェクトの支援**

中長期計画ビジョンの数値目標の達成に貢献する国際生によるプロジェクトを公募します。海外における活動であれば、個人またはグループ単位での企画立案も歓迎します。詳細については学内広報紙「フロンティアタイムズ」で告知しますので、その要領に沿ってエントリーしてください。

**Action Plan［プラン6］ 6 持続可能な社会の実現に向けた研究開発の推進**

SGHアソシエイトの研究開発で得られた知見をもとに、国際教育カリキュラムの深化・充実を図るため、学校設定教科「サステイナビリティ」を新たに設置します。これを高大連携プログラムとして探究型学習とアクティブラーニングを推進します。また、持続可能な社会の実現のため多様な分野の専門家が集い、現状を多面的に評価し、共通の社会課題の解決を目指す新しい対話の形であるフューチャーセンターとしての機能を果たします。

**Action Plan［プラン7］ 7 国際教育を推進できるキャンパスクオリティの保証**

教育施設の点検と評価の方法を標準化することで、迅速かつ一元的に改善点を把握し、メンテナンスポリシーに基づいたPDCAサイクルを実施します。施設営繕および備品購入に際しては、優れた技術力を保有し、環境に配慮した省エネルギー基準が認証された製品を扱う企業を選定します。また、ICT環境の整備は、学習効果の測定結果に基づき、生徒の授業満足度の向上に繋がる情報機器を段階的に導入します。

**Action Plan［プラン8］ 8 国際基準に適合するキャンパスマスタープランの作成**

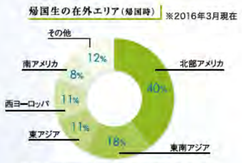
キャンパスは学校の教育方針や歴史を体現するものです。国際生にとっては日々の学習の場であり、卒業生にとっては学校生活の思い出となります。より高度な国際交流に貢献できるキャンパスに再編するため国際基準を満たしたマスタープランを作成します。中央に位置するキャンパス最大の交流の場であるアトリウムの求心力を高めたゾーニングを始め、省エネルギー、生物多様性、セキュリティ、防災に配慮したキャンパスポリシーを設定します。

2021年 / 2022年 / 2023年

**Action Plan［プラン9］ 9 次世代の中等教育に適した入試制度への移行**

グローバル化に対応したアドミッションポリシーを軸に、現行の入試の受験資格者に加えて、国際基準の初等教育プログラムの修了者を対象とした次世代の中等教育に適した入試制度に移行します。また、海外に拠点を置く愛知県内の企業のニーズを受けて、帰国生の定員枠の拡大を図るとともに、帰国子女にとってアクシビリティの高い入試とするために、海外在留期間でもアドミッションオフィサーが現地で対応できる体制を整えます。

Phase2 フェーズ2［3年間］ フェーズ1で得られた成果と実績値を勘案して、フェーズ3にバトンタッチするためにアクションプランを修正する時期




世界20カ国の文化圏での生活を経験した帰国生を受け入れる名古屋国際では、国内一般生と帰国生が切磋琢磨して文武に励んでおり、国際教育はすべての国際生を対象に実践しています。

- リニア中央新幹線(東京～名古屋間)が開業
- 学校法人愛本学園90周年を迎える
- 国際化に取り組む愛知県が中部国際空港の完全24時間運用を実現する

2024年 / 2025年 / 2027年

**Action Plan［プラン10］ 10 国際的に通用する第三者評価の導入**

保護者、生徒および教職員の全員を対象として毎年実施している学校評価アンケート(学校関係者評価を元にした自己点検)に加えて、国際的に認知されている監査企業による第三者評価を追加導入し、専門性と客観性を高めた新しい学校評価システムに移行します。なお、その評価を元に単年度の学校基本計画を校長が中心となって策定しウェブサイト等を通じて公表します。

**Action Plan［プラン11］ 11 世界で活躍する卒業生との交流促進事業の開始**

名古屋国際高等学校の同窓会組織との共同企画によって、世界各国に留学もしくは駐在している卒業生のネットワークを築くための専用ウェブサイトを設置します。世界で活躍するOB・OGを対象としたグローバル同窓会の開催を支援し、国際生との交流の機会を作ります。

**Action Plan［プラン12］ 12 未来を見据えた小学生英語イマージョン教育の実践**

次世代の教育に必須のキーワードとして挙げられる「サステイナビリティ」と「プログラミング」の2つのアクティビティを追加した新しい英語イマージョン教育プログラムを名古屋市内の小学生を対象に無料で提供します。ネイティブファカルティが中心となって行うこのクラスの授業時間の8割は英語で行われ、あらゆる物事を生活の中で自然に学習するのに最適な初等教育時期に国際教養と国際感覚を身につけることができます。

Phase3 フェーズ3［3年間］ 中長期計画の最終段階として、ビジョン実現に向けて修正および追加されたアクションプランの着実な実施と評価を実施する時期